

◎ 学校の概要・地域及び児童の実態

(1) 地域の概要

①「富美」…地名の由来

明治41年の古い地図には、現在の富美川「フォミ川」と書いてある。昭和43年発行の「湧別町史」には、アイヌ語「フミイ川」（音の立つ川）がそのまま部落名になったと記述されている。その頃の三角点（この地方測量の基点）には「文山」と書いた木札が打ち込まれていたのを見た記憶があると、当時の入植者（古老）が言っていた。

「フォミ」とは、アイヌ語で音をたてる…という意味で、松浦竹四郎の由宇辺都（湧別）日誌では雷鳴の起きることを言い、共に音をたてることで共通している。「フミ」の語源は、その頃の古老が「フミ」と定め、これを漢字にあて「富美」と定めた。

「富んで美しい地」「清らかな地」をあらわす地名は、1世紀を経た今でも、地域住民の誇りでもあり、原動力ともなっている。

②校下地域の概要

校区は、湧別町の北西方向に位置する富美地区・上富美地区の2地区からなり、全戸数38戸（富美32戸、上富美6戸）、全人口約140名である。地域のほとんどが、乳牛を営んでおり、湧別町の酪農専業農家として中心的な役割を担っている。

校区の中央を縦断する富美川は、上富美と社名渚の分水嶺に源を発し、小河川の合流により形成され、一級河川の湧別川を経てオホーツク海に注がれる。「富美川」は、古くから清く美しい川として、生活・農業用水として利用され、地域住民にとって憩いのと安らぎをもたらし、ふるさとの象徴的存在となっている。

また、富美地区には三角点である文山（ぶんざん）、上富美地区には手拭山（てぬぐいざん）をシンボルとした山々に囲まれ、自然豊かな地域である。

③地域の教育姿勢

明治末期の富美地区には、約30戸あまりが定住していた。子どもたちは、悪路の中、湧別川を横断する渡舟に乗り、片道8km離れた北湧校に通学していた。その道のりは、幼い子どもにとっては大変危険を伴い、時々熊の声を聞き、走って逃げ帰ったということも幾度ともなくあった。

そこで、「地域に学校を」との気運が高まり、大正2年7月、地域有志の拠出などにより、地域一丸となって校舎を建設し、開設を成し遂げた。その後、幾多の紆余曲折を経ながらも、地域住民の堅い結束力で学校を守り続けた。平成24年10月7日開校100周年記念式典が盛大に挙行された。

「地域の子どもは、地域で守る」という学校創設時の信念は、100年経った今も脈々と引き継がれ、学校の支援体制も確固たるものがある。

(2) 児童の実態

①児童の状況

◇全校児童11名で、全体的に明るく家族的な雰囲気、異学年が互いに協力し助け合いながら諸活動に取り組む。

◇近年は、女子児童の割合が多い。

◇長きにわたって行われている特色ある教育活動、版画カレンダーづくりや富美太鼓では、上級生がリーダーシップを取ってしっかり伝承されている。

◇学習を初め、特色のある教育活動等、何に対してもよく努力する。

◇個人の発表場面が多く、人前でも堂々と発表する力がついてきている。

②在籍児童数

	1年生	2年生	3年生	4年生	5年生	6年生	合 計
男 子	0	1	1	0	0	0	2名
女 子	4	0	2	2	1	0	9名
合 計	4名	1名	3名	2名	1名	0名	11名